

## 総合教育会議の開催について

### 1 会議名、開催日時及び場所

- (1) 会議名 第22回墨田区総合教育会議
- (2) 日時 令和8年1月26日(月) 午後3時から午後4時15分まで
- (3) 場所 区議会第一委員会室(区役所17階)

### 2 出席者等

区分	出席者等
(1) 構成員 / 6名	区長、教育長、教育委員4名
(2) 区長部局 / 6名	副区長2名、企画経営室長、行政経営担当課長事務取扱企画経営室参事、政策担当課長、総務部長
(3) 教育委員会事務局 / 8名	教育委員会事務局次長、庶務課長、学務課長、指導室長、すみだ教育研究所長、地域教育支援課長、ひきふね図書館長、教育委員会事務局副参事(学校改築計画担当)
(4) 協議事項の関連部 / 4名	福祉部長、地域福祉課長事務取扱福祉部参事、子ども・子育て支援部長、子育て政策課長、
(5) 傍聴人 / 18名	一般10名、区議会議員8名

### 3 協議事項

- ・墨田区教育施策大綱の改定素案について  
教育施策大綱の改定素案について、課題と施策の方向に掲げる各項目の説明を踏まえ、意見交換を行った。

### 4 会議での主な発言

区長	<ul style="list-style-type: none"><li>・こどもの未来像が区の基本目標にある「あたたかいおせっかい」という墨田区ならではの状況や精神が反映されており、それぞれの課題と施策の方向に沿って、色々な人たちが関わっていくことによって、目標が実現されていくと考えている。</li><li>・教育施策大綱と墨田区基本計画の施策の両面で推進していくことによって、すみだの子どもたちが健やかに力強く成長して、未来で大いに活躍してくれるということを願う。</li><li>・切れ目ない子育て支援には、子育て、教育、医療、地域などの様々な人が関わり、連携していくことが重要で、この大綱にもその考えが反映されていると思う。</li><li>・地域活動を持続可能なものとしていくには、地域にある人財の発掘と色々なチャレンジが大事だと感じた。</li><li>・この総合教育会議での議論を学校現場と共有して、活かしていくこと</li></ul>
----	---

<p>区長</p>	<p>ができれば、区の施策がより強力に進展していけるのではと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本構想の施策の方向性にも「未来を切り拓く力を育てる」を掲げており、基礎学力の定着は応用力の発揮に欠かせないもので、応用力はまさに未来を切り拓く力に通ずるものである。</li> <li>・墨田区は教員にとって魅力ある職場であり、教育者としても学び成長できる場であるということ、それが見えることによって、本来やるべき教員の仕事が十分に果たせる、こどもをしっかりと育てるという、いい循環をつくっていくことが重要だという各委員の意見は非常に参考になった。</li> </ul>
<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のある家庭に必要な支援を届けるには、小さな気づきを小さなおせっかいでつなげていくことが重要だと考える。</li> <li>・一人のこどもや家庭に対して、様々な人たちが連携して関わり、見守っていくことが、こどもの安心につながるとともに、支える人たちも力強く感じられると思う。</li> <li>・地域住民との連携協力、地域の持つ教育資源を活用することで、より豊かで魅力的な教育活動を推進するという施策の方向については、大変期待するところである。</li> <li>・地域のイベントに参加、参画することで、親や周りの大人に対する感謝や尊敬の気持ちを抱くなど、お手伝いをして役に立つことが自己有用感を高める体験となるので、継続していければと考える。</li> <li>・少子高齢化の進展による地域活動の担い手の減少は避けられず、共働き家庭やひとり親家庭が増えていく中で、特にPTA、子ども会などの活動は、保護者から負担の重さを理由に敬遠されている。地域活動の魅力を発信する仕組みや新たな担い手の拡大への工夫が必要であるが、各団体で行っている類似イベントの集約など、担い手の負担軽減をし、持続可能な形でおせっかいが巡る地域コミュニティーの構築のため、区によるソフト面、ハード面での支援・応援もお願いしたい。</li> <li>・将来、役に立つ学力というのは、学んだ知識や技能を積み上げていくことによって、より高い知識や技能を習得していくことが重要だと考えているため、定着という取組を重点化していることが、こどもたちの将来を考えていると感じた。</li> <li>・自己有用感及び自己肯定感の醸成は、こどもたちのやる気やモチベーションを高めるために重要な点だと考える。長所だけではなくて欠点も含めて自分自身が価値ある大切な存在だと自己評価でき、他人から必要とされて貢献できたという充実感が、やる気やモチベーションを高め、学習に関してもその基礎となることだと考える。</li> <li>・非認知能力の育成にある、幼児期から義務教育終了まで連続性を持った取組という視点も、学力向上の基礎となる重要なものだと考える。また、そういう子育てにも関係する取組などを保護者に積極的に情報発信することが家庭の教育力の向上にも大切な視点だと思う。</li> <li>・教員を志望する学生の中には、教員にはすごく魅力があるが、社会全体の働き方改革の歩調に教員の就労環境が追い付いていないことから、躊躇や不安を感じている学生も少なくないため、教員の働き方改革の推進という視点も非常に重要である。</li> <li>・平和の尊さや人権意識の向上の教育について期待する部分が、多様性を尊重し、世代を超えた交流を促進する、持続可能な未来を創造するとした未来像や、多文化共生教育の充実などの施策の方向に十分に反映されている。</li> <li>・教員の過重労働の問題は、実際に児童・生徒と関わる教育活動でない</li> </ul>

教育委員会	<p>部分の負担が大きいと考える。本来教員がやりたいこと、それを望んで教員になったという意欲がそがれるような状況に危機感を覚える。教員の意欲を推し進めるよう、教育活動以外の部分の負担をなるべく軽減できる施策を進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人のためになって自分を肯定できるという、「あたたかいおせっかい」に通ずる自己有用感は教育委員会でも重視している。地域の方たちも子どもたちに様々な貢献をしており、保護者も子どもが卒業した後でも学校のことで色々貢献しているなど、墨田区では実践ができているので、学校教育でもこういったものを取り上げて、自己有用感を中心に育てていきたい。</li> <li>・基本的には認知能力と非認知能力の育成に尽きるが、学校・家庭・地域のどれかを重点的にやればよいというものではなく、同時並行的に施策を展開していくことが必要だと考える。</li> <li>・こどもの体験活動が家庭の経済的な状況によって異なると言われているが、どこかに行って体験するだけが体験活動ではなく、地域の大人の背中を見て学ぶことが非常に多いので、体験活動を補填するためにも、地域の方たちの活動が非常に重要であると考えている。</li> <li>・学力向上の取組や特別支援教育が充実していることを理由として墨田区を希望する教員が増えている。また、カザフスタンから特別支援学校の教員たちが視察に来るなど、墨田区の教育は充実してきているが、今後もより一層教員がやりがいを感じる環境整備を教育委員会としても進めていく必要があると考える。</li> </ul>
-------	---

## 5 会議資料

- (1) 墨田区教育施策大綱の改定案（素案） 資料1のとおり
- (2) 墨田区教育施策大綱 現大綱との比較 資料2のとおり